



新年度が始まって1か月が過ぎ、緊張した空気に包まれていた新入生の教室も、日を追うごとに会話ややりとりが増え、にぎやかになってきました。

4月の学部懇談会では、お忙しい中たくさんの保護者の皆さまにおいでいただき、ありがとうございました。また面談や家庭訪問では、ご家庭との連携を図ることができ、一人ひとりの目標を立てて日々の教育活動を展開することにつながっています。今後ともご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



さて、5月に入り新緑がまぶしい季節となりました。いっせいに咲き始めた色とりどりの花は気持ちをなごませてくれます。しかし自然にはやさしさもありますが、時として厳しさがあることも事実です。特に自然災害を前にすると、いつそうその思いが強まります。このたびの熊本地震では、被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

今回もそうですが、こうした災害を私たちは常に教訓にし、自然の厳しさを忘れないための警告として受け止めなければなりません。あらためて防災への備えをいっそう推進していくとともに、これまで同様に消防署等との連携はもとより、保護者や地域の方々との連携もさらにすすめていく必要性を感じています。

災害時の対策を考える上で「自助」「共助」「公助」という考え方があります。「自助」は自分たちの命を自分たちで守ること、「共助」は近隣同土地域で助け合って守ること、そして「公助」は警察や消防など行政による救助や支援です。私たちの学校がここにあること、障害のある児童生徒が在籍する学校があることを多くの人に知ってもらい、万一の時に思い出してもらえるような「つながり」はとても大切である、と東日本大震災を経験された方から伺いました。また一人ひとりの命を守るために、児童生徒とともに実践的な訓練を繰り返して防災教育を行うことも、本校の大切な目標の一つです。

4月初めには職員全員で避難訓練を行ないました。5月には児童生徒とともに行なう訓練を計画しています。今回は保護者の皆様にも参加を呼びかけ、訓練後には防災倉庫の見学も予定しています。また地域の皆様にも参加を呼びかけるなどして連携を深め、地域とともに防災への備えを築く取り組みも、今後継続して行なっていく予定です。災害時にお互いの協力体制がとれるという視点からも、普段からの関係作りをよりいっそう大切にしていきたいと思います。

4月20～22日には知的障害教育部門高等部3年の沖縄修学旅行がありました。進級してすぐの大きな行事でしたが、さすが高等部3年生。これまでの学習の積み重ねもあり、仲間との旅行を大いに楽しんで、無事帰ってきました。雨の予報にもかかわらずお天気にも恵まれて、予定していた活動をすべて計画通り行なうことができました。高等部3年生は今年が中原養護学校での最後の1年間になりますが、これからも最上級生としての活躍を期待しています。がんばってください。